

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

新潟県立国際情報高等学校（新潟県）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】〈国語〉教師が伴走者に徹し、クラウドを有効活用することで、生徒同士の対話や協働を加速させる

＜考察＞

・可視化された情報のどこに着目しているのか。

→他者参照等、生徒自身が主体的に取り組むことができるようになったことはもちろん重要であるが、ここでは“伴走者としての教師の関わり”に大きな変化をもたらしたことに着目したい。

生徒が主体となった授業スタイルを確立することで、**教師は個々の生徒の活動をよりつばさに観察できるようになった。これによって、顕在化できた“個々の生徒のつまずき”や“個々の生徒の読み方や考え方、解釈の違い”こそ、共有の価値が高い。**

それぞれのグループの解答に加え、“つまずき”から教師が得た「アドバイスや“つまずき”・“解釈の違い”等」をスプレッドシートに一元管理することで、**生徒同士の対話や協働をより充実させる環境を整えることができた**と考える。

・個々の児童生徒にどのように指導するのか（介入するタイミング等）や次時の指導の改善にどのように活かしたか。

→班内での活動が行き詰った場合には、他の班や教師にアドバイスをもらいにいく、スプレッドシート上にある「アドバイス～」（上述：机間巡視中を経て適宜入力）を参照する等指導。さらに支援が必要な場合には個別に対応。



★Google Classroomにて、**授業に関わるデータを一括配信・共有。**

★**学びを深める・広げるための補助資料を紹介**

- ・著者関連の動画サイトリンク
- ・テーマ関連の動画サイトリンク
- ・書籍資料案内など

★**授業目標を配信**

【授業目標】

- A：問と解、換言（指示語を含む）、具体と抽象、因果等の関係性を掴む。
- B：必要に応じて図示する等工夫しながら、内容を整理する力を高める。
- C：形式段落・意味段落ごとにまとめて読む、本文全体の要旨をつかむ力を高める。

★**問を配信**

Ⅰ【読解】全体（２）

B・C:⑮「今、私たちが考えねばならないのは、生命観と環境観のパラダイム・シフトなのである」とあるが、どういうことか。次の図を完成させよ。

	命の支える パラダイム・シフト後のあり方	命のあり方
生命観		
環境観		

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

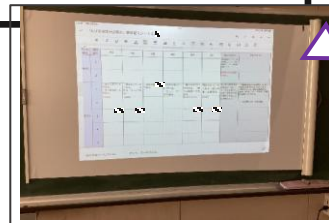
新潟県立国際情報高等学校（新潟県）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】〈国語〉教師が伴走者に徹し、クラウドを有効活用することで、生徒同士の対話や協働を加速させる

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	2-1										
2	問いの種類	問題番号	1班	2班	3班	4班	5班	6班	例や注意点	アドバイス	
3	全体	1							意味段落一：〇〇、意味段落二：〇〇、意味段落三：〇〇、意味段落四：〇〇		
4		2							※時間があれば取り組む。		
5		1	・順なまで〜のである。 ・彼らは確実〜を手渡す。	・順なまで〜のである。 ・それは、バ〜とである。 ・種の継承	・順なまで〜のである。 ・自分が食べ〜している。 ・	・自分が食べ〜している。 ・	・順なまで〜のである。 ・彼らは確実〜を手渡す。	順なまで〜のである。 ・彼らは確実〜を手渡す。	それぞれ解答のみ書き込めば良いが、本文を提示しながら解答の根拠を説明できるように準備しよう。	・「傍線部を含む一文を確認する」という最大の守らないとダメだぞ！ ・解答は「二つ」。他にも候補はある。だから、「つまり」「本文中での最適解」を提示。ということ。	
6		2	十二	十二	十二	十二	十二	十二	・「どう書くか」こそが鍵。		
7		3							・具体と抽象の問題です。 ・問いの内容についてもよく確認しましょう。際す段落は、「段落全てが具体例」というわけではないですね。 ・以前から「傍線部を分けて分析する」ことを伝えてきました。今回はその初級問題。「動的平衡を」「保持する」、それぞれがどういうことかよく理解できていれば、見つけやすいです。こうして「傍線部を分けて分析する」こと、大事です。		
8	部分		動的平衡の〜こそ見え 点	動的平衡の〜こそ見え 点	動的平衡の〜こそ見え 点	動的平衡の〜こそ見え 点	動的平衡の〜こそ見え 点	動的平衡の〜こそ見え 点	・【3班が教えてくれました！】傍線部を含む一文の中にある、「必要」は、他の箇所でも「機械」と言い換えられています。「言い換え」は言葉のコア（核心）部分で、共通の意味を持つのです。		
9									・部分（4）とタイプは同じ。それのちょい難Ver.です。（4）での学び、アドバイスを活かして。		

★Google スプレッドシートにて、**各班の解答をリアルタイムで共有**。解答の入力に加え、教師に解答のポイントを説明できるよう、それぞれが準備をする。

個々のタブレットでの参照だけでなく、**電子黒板にも提示し**、こちらでも生徒・教師が進捗確認等できるように。



※各班で解答を入力。

他者参照を容易に。

班ごとの解答は徐々に収斂される傾向にあるが、生徒は**ただ他班の解答を写しているわけではなく、むしろそれを素材に、活発に議論していた。**

※机間巡視を通じて得られた、思考の手助けとなる「アドバイス」「つまづき」「解釈の違い」等を教師が入力。

※本文への書き込みを**データ共有**する姿も。

※他班に**解答の根拠**を尋ねに。

※教師に対し、タブレットを使った**プレゼンテーション**で、自分たちの解答のポイントを説明する準備中。

※机間巡視では、答えを教えるのではなく、**思考の補助や他者との会話の糸口を作る等、コーチングを徹底。**

生徒の感想

班での活動が上手くいかなかった時でも、他班の答えや考え方を見聞きし、**改めて考え直すことで“新たな視点”で問いにアプローチできる。**

